

機械修理業における飛来・落下災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
9	14～15	建物内において、自社が提供した高圧機の修理作業中、圧力ゲージが0になっている事を確認した上で、高圧機の配管を取り外す作業を行っていた。しかし、配管内にゴミが詰まっていたため、実際には配管内には圧力が残っており、配管を外した際、残圧によって激しく噴出した水を浴び、負傷した。	38～29	10～29
10	13～14	実験室で工具顕微鏡により、サンプルの寸法を測定中、その後方でフード設置のため、工事業者が、工事看板表示及び区画整理をせずに作業しており、高さ2mの位置にて不良箇所調整中にフードを落下させた。被災者は前方を見て作業をしていたため、フードの落下に気付かず、右肩から首にかけて強打した。（フード：900×750×H420ステンレス製約7.2kg）	25～299	100～299
11	8～9	全身に衣装を装着し水域ショーに出演中、ステージ下での自由演技の中で、「足を少し曲げてから両足で約30cmジャンプをし、足を曲げながら着地をした」際、右足ふくらはぎに攣ったような痛みが発生した。振りを軽減し最後まで出演した。公演後に公演用船舶から、下船する時に右足ふくらはぎを攣り、足が着けられない状況となった。	31	1～9
11	9～10	会社工場内において、他の従業員と2人で重さ100kg程度の機械の荷下ろし作業中、下ろす際に機械が傾いて倒れ、右足の指を負傷した。	30	10～29

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html